

# IMF サーベイ

国際金融安定性報告書

## 国際金融システムの安全性向上に向けた作業は続く

IMF サーベイ・オンライン  
2012年9月25日



デリバティブ市場の改革で、透明性の向上を図る。（写真: Von Brauchitschi/Newscom）

- 危機勃発後5年を経過しても国際金融システムは依然良い状態にない
- 計画されている改革を実現するには一層の努力が必要。金融システムの透明性を高め、よりシンプルなものを目指すべき。
- 「影の銀行部門」と「重要すぎてつぶせない」機関の問題は未だ手つかず。

金融システムの安定性を高めるための規制改革の様々な努力が世界中で進められている。しかし、システムをより強固なものにするために規制当局、監督当局、民間部門が取り組むべき課題が依然山積していることを国際通貨基金（IMF）の調査研究は示している。

国際金融危機が勃発してから早くも5年経過しているが、IMFによれば、改革の方向性は正しいものの、安全な金融構造はいまだ確立されておらず、難しい課題がいくつか残されている。

「政策当局の意図は明確で前向きなものだが、改革によって安全な金融構造を確立するという目的は未だ達せられていない。一つの理由は、いくつかの国や地域では危機が長期化したため公的な介入を続けざるを得ず、金融システムを「再起動」させ安定的な経路に乗せることができないでいることである。」とIMFは国際金融安定性報告書の分析編の一章で述べている。

国際金融危機は米国のサブプライム住宅金融市場に端を発した後世界中に広がったが、大恐慌以来最悪の経済後退をもたらし、何百万人もの失業者を発生させるとともにいくつかの有力な金融機関の公的な救済を余儀なくさせた。

改革の方向は正しい

「より安全な金融システムに向けての進展にかかる中間報告」と題された調査研究において、改革は「金融市場と金融機関の透明性を高め、より単純でレバレッジの低いものとする」、という正しい方向に向かっていると評価している。

しかし同時に、いくつかの分野では改革の内容を改善する必要があり、実施に移すには一層の努力を要するだけでなく、多くの場合、金融システムは依然脆弱であるだけでなく、あまりにも複雑で大規模金融機関への集中度が高すぎる、と論じている。ノンディポジットファンディングへの依存は著しく高く、国内の金融機関の結びつきは非常に強い。また複雑な金融商品は新たな形となって存在している。

報告では、「金融のグローバル化の大幅な後退が（一部の危機国での反転にも関わらず）起きていないのはよいニュースである。しかし、これは同時に、統合が高度に進んだ経済では適切な政策をとらなければ海外からの波及が引き続き問題となることを意味する」、と述べている。

### 銀行部門の改革が中心

このレポートによれば、これまでの改革努力は銀行部門が中心となっており、リスクの高い活動に対してより高いコスト課すことを目的としている。

バーセル III 規制での自己資本と流動性の強化により、銀行の危機耐性は向上するであろう。デリバティブ市場の透明性を高める改革により、デリバティブのリスクのプライシングが改善し、カウンターパーティー・リスクの一部縮小もありうるであろう。

しかし、レポートでは銀行がこうしたコストの上昇に様々な対応をとり、意図せざる結果に繋がる可能性があることも指摘している。新たな規制を回避するための商品開発がすでに進んでいる。また、銀行規制の強化が、規制のかからないノンバンク金融部門に取引が流れることを後押しする可能性もある。

別の観点からは、規模の利益を有するため巨大銀行グループのほうがこうした規制のコストを吸収しやすく、その結果、特定のマーケットでの大銀行のシェアが拡大し、市場の集中度が高まる可能性もある。

IMFの金融資本市場局で国際金融安定分析の主査を務めるローラ・コドレスは、この研究を公表したワシントンでの記者会見で次のように述べている。「低金利という環境が現在のところ不可欠だ。しかし、これは今後新たな脆弱性を生むことになるかもしれない。危機の反省から導入された措置の副作用から将来新たなリスクを生むことがないよう、現時点で規制監督当局の注意を促す必要がある。」

「改革の影響を見定めることはまだ出来ない。改革の完成には長期を要し、危機が進行中という事情もある。しかし、我々の提供した枠組みを用いれば、改革が危機収束後の、将来の金融仲介構造にどのような影響を与えるかを分析することができる。」

### やり残していることは多い

改革はかなり進展しているものの、いくつかの分野では改善が必要であることをレポートは指摘している。具体的には、

- 銀行の**特定のビジネスモデル**について、資本の強化を単に求めるだけではなく、直接的規制のメリットとデメリットについての国際的な議論
- いわゆる影の銀行部門にあってシステム全体に及ぶリスクを有する**ノンバンク金融機関**をモニターし、必要なら監督上の基準を設けること。
- より**単純な商品と単純な組織構造**を促すにはどうすればよいかを慎重に検討すること。
- 経営困難に陥った大規模金融機関への対応を改善すること。特に金融のグローバル化の恩恵を享受する上でも、**多国間にまたがる破綻処理の仕組み**を改善すること。

これらに加え、こうした改革を成功させるには、導入済みのものも今後制定されるものも含め、金融システムをよりシンプルかつ安全なものにする目的を達成するには、監督の充実、民間部門が改革を遵守するインセンティブの強化、規制を実施に移す政治的な意思、必要な資源の確保が必要であると論じている。